

日常場面での行動を 認知心理学の視点で理解する

キーワード 心理実験 / 脳機能計測 / 注意



自動車は我々にとって身近な道具ですが、一歩間違えると悲惨な結果を招きかねない凶器でもあります。自動車事故を引き起こす大きな理由の一つが不注意です。運転者がどこに注意を向けているのか、また何に注意を奪われるのかを知ることで、より良い車内環境や道路環境をデザインできます。

これまで心理実験や脳機能計測を組み合わせるとヒトの注意の動きを調べてきました。例えば、運転席近傍にスマートフォンを置くことが運転者の注意を引き、前方の道路状況の変化への反応が遅れることを示しました。このように日常場面での行動を実験的に調べ、ヒトの心理メカニズムに迫ります。



日常場面を心理実験に落とし込み、ヒトの行動のメカニズムに迫ります。

心理実験と脳機能計測を組み合わせることで、ヒトの行動の生物学的基盤に迫ります。



自動車運転時に限らず、日常場面でのさまざまな行動のメカニズムを心理実験を通して明らかにしていきたいと考えています。こころのメカニズムを知ることで、より良いサービスの提供や製品開発への示唆が得られると信じています。



川島 朋也 講師・博士(学術)
情報フロンティア学部 心理科学科
所属研究所：感動デザイン工学研究所

研究者情報URL

<https://www.kanazawa-it.ac.jp/kyouinroku/a/CDAHC.html>
<https://researchmap.jp/tkawashima>
<https://sites.google.com/site/tmykawashima/>